

MeSo

医療の
仲盟

Medical Care & Social Welfare

一人で百歩進むより、 百人で一歩ずつ



社会保険京都病院支部第43回定期大会

今年で組合結成43年を迎えます。これまで様々な運動をすすめてきましたが、今、最大の厳しい状況になっています。

社会保険病院の存続というかつてない厳しい闘いの中で、確信を失いそうになりながら、仲間の団結の力で乗り越えようとしています。久しぶりに2名の組合加入者があり、少し元気づけられました。何事も、地域住民の方々や、患者さんに依拠し、力をいただきながら今後も運動をすすめていこうと、執行部一同、身を引き締めています。

“一人で百歩進むより、百人で一歩ずつ”を胸にがんばります。

も く じ

- 2 P 50周年レセプション
- 3 P 職場の安全衛生活動
OBが語る・熱い思い出
- 4 ~ 5 P ホームレス問題
どう考え、どう行動し、どう解決するか
- 6 P 時には音楽
トークプラザ
数珠つなぎネツ友



京都医労連50周年、一番新しい組合が美山診療所労働組合です。「職場をやめるのはいつでも出来る」と言い切った委員長の高野長司さん。前理事長の卑劣な攻撃に負けず、地域の人たちと診療所を守った思いが横断幕に「今までがんばって来てよかったね、これからもがんばろう」と。

50周年レセプション

京都医療労働組合連合会



元京都医労連書記長
いざらいみのる
小井実さん





シリーズ

職場の労働安全衛生活動

安全の医療現場を！看護職員の大幅増員を！（国会請願署名資料・医労連）の中で医療事故に対するアンケートが記載されています。

あなたが医療ミス・事故の原因と思われることはの問いに対して「医師や看護師などの過密労働」（山形県患者・市民アンケート）、医療・看護事故が頻発する原因は何だと思えますかの問いには「医療現場の忙しさ」「交代制勤務による疲労の蓄積」（看護現場実態調査・中間報告）等が回答されています。

改めて医療現場の労働条件の厳しさ、健康問題そして医療の安全性にもかかわる大きな要因になっていることが浮き彫りにされました。

労働安全衛生法（第3条1項）では、「事業者は、単にこの法律で定める労働災害の防止のための最低基準を守るだけでなく、快適な職場環境の実現と労働条件の改善を通じて、職場における労働者の安全と健康を確保しなければならない」と謳い、事業者に対して法の最低基準を守ること、快適な作業環境の実現

使ってみない？ 労働安全衛生法

チェックポイント

安全衛生管理体制（医療）

総括安全管理者（1000人以上の事業所）

衛生管理者（50人以上の事業所）

産業医（50人以上の事業所）

安全衛生委員会（50人以上の事業所）

安全衛生推進者（10人以上50人未満の事業所）

法はあくまでも最低基準です。労働組合の取り組みでよりよい労働条件と職場環境を！！

労働条件の改善

を行う責任と義務があるとされています。

しかしながら、労働条件の改善、いのちと健康を守る取り組みに対して、労働組合が労働者の立場で追求、点検をしなければ決して事業者が自主的に改善を行うことは無いに等しいでしょう。

職場で具体的に安全衛生活動を進めるためには、それに伴う組織・体制が必要であり、事業者には管理体制が義務づけられています。

事業者責任を果たさせる上で、管理体制・管理者の配慮・職務の遂行が行なわれているか点検しましょう。

50周年記念 支えあい はげましあう仲間とともに歩んだ労働組合運動



50周年記念

1967年、健保鞍馬口病院（社保京都病院）に就職。結婚、出産、三交替しながらの3人の子育て、姑や夫の看病などなどを人並みに経験しながら働き続け、定年を迎えるまでの約34年間、その大半を労組の役員として過ごしてきた。

組合つぶしの攻撃に24日間のストで闘った70年夏、複数8日夜勤をめざして取り組んだ3ヶ月に及ぶ73年の夜勤制限闘争、組合員の昇進差別許さないと労働委員会に訴え、ついに組合員の婦長を誕生させた81年からの3年間の闘い。

「組合運動が好きなんだろう」と陰口をたたかれたり、昇進差別を受けながらも、大して苦にもならず頑張れたのは、共に手を携え、支えあい励ましあう仲間がいたからだ。

何よりもよい看護・よい医療がしたい、患者さんの思いに添った仕事ができる職場にしたいという思いがあった。一人一人の努力はもちろん必要だが限界がある。一人の優れた看護師、一病院だけのよい仕事だけではなく、いつでもどこでも誰でも

がよい看護のできる環境と労働条件作りこそが大切だと、仲間たちといつも議論しながらやってきた。

そして心の隅にはいつも、ストライキをかけて勤務評定反対闘争や教育基本法の改悪と闘ってこられた中学時代の恩師の手紙の一節があった。「少年時代の僕の夢

は航空兵になって敵兵を攻撃することでした」と、誤った教育と歴史観の押しつけがいかに人の心をゆがめるかを切々と語りかけてくださっていた。

いま医療をとりまく情勢は極めて厳しい。労働組合運動も順風満帆とは言えない状況にある。

けれどもどんなときにも患者さんに良い医療を提供すること、そのための条件整備を勝ち取ること、平和を守ることが、私たち医療労働者の使命ではないか。

ベテランも若者も共に力と智恵をあわせて困難をのりこえ、働き続けられる職場を築いて欲しいと切に願っている。

（増田 靖子）

OBが語る

熱い思い出

動し、 するか



施設の全景

経済不況が長引く昨今ですが、私たちが暮らす京都の街でも例外ではありません。京都市の調査では、約620名のホームレスの人たちが京都市内に在住していると報告されています。ホームレスと言えば以前であれば、悪く言つて「世捨て人」あるいは「浮浪者」といった、家族や仕事を捨て、一般社会からドロップアウトして生きている、アウトサイダーのような印象があったかもしれませんが、しかし、不況の世の中ではある日突然、首切りリストラでにつきもさつちもいかず、不本意ながら路上生活を余儀なくされるケースが増加しています。このようななかで、ホームレスの問題をどのように考えて、解決するかが大きな社会問題になっていきます。京都市南区にあるソーシャルサービス協会ワークセンターでは、ホームレスの人たちの自立支援活動に取り組んでいます。同センターは、失対事業をしていた全日自労にそのルーツがあります。そこでの取り組みについて、生活困窮者支援施設ソーシャルホーム施設長、三毛進さんからお話を伺いました。

ワークセンターの炊き出しって、どんな活動なんですか？

炊き出し支援は、毎月第2土曜日に、南区の勤進橋にある旧京都高齢者事業団で行っています。炊き出し支援は、下京区にある中央救護所に張り紙をしてお知らせをしています。毎回多くの人たちが集まってこられます。1回の炊き出しでは約5万円の費用がかかりますが、その費用の多くは新聞で炊き出しの中心とした人たちを中心としたカンパでまかっています。また、炊き出しに必要な道具や備品も、寄せられています。できるだけ経費を切りつめていますが、財政は楽ではありません。赤字がどうしても出てしまいます。120人から150人の方が毎回集まり、衣類や日用品などの物資支援

一時宿泊施設の事業や運営はどうですか？

も炊き出しとあわせて行っています。また、毎回いろんな人たちがボランティアとして参加しており、医療関係者による健康相談は特に好評です。いったん話しをしたらとなかなか終わらないのです。相談を受けられている方も大変だと思えます。それだけ、ホームレスの人たちにとって、健康問題は深刻だと言えます。若い学生さん達も毎回のように参加されています。若い人たちの参加は嬉しいことです。

同所の住所が居住地になり生活保護の受給を受けることになります。入所者の保護費も財源にして、施設の運営にあてています。

財政上は厳しく、何とかやりくりして運営していますが、赤字が出ています。1回の入所期間は3ヶ月にしていますが、その間に職が決まらなければさらにもう3ヶ月の延長も認めることになっています。まだ開所して数ヶ月ですが、2名の方が職を見つけられました。いずれも私どもの取り組みにご理解をいただいた方からの紹介です。しかし、不況の世の中ですので、事業所が倒れたらまた路上に戻る不安はぬぐえません。



ホームレス問題

どう考え、どう行 どう解決



ソーシャルホーム施設長 三宅進さん

入所者の皆さん方の日常生活は？

路上生活者の人たちは一応に、健康状態が良くなく、体力が落ちています。中にはこんな例もありました。入所時の健康診断で肺結核が判明して、措置入院になった方がおられました。後日、入院先にお見舞いに行っただんですが、その方は涙ながらに無念さを語っていました。今度こそ、路上生活を抜け出せる絶好の機会だったのに、その機会を失ってしまったことが残念でならなかったようです。

長いとしばらくは時間がかかります。そのため、入所者が守る日常生活のルールを決めています。それでも約1ヶ月ほどの日数がかかります。通常の生活に慣れながら、週3回八口ワークに通うことが入所者の日課になります。その他には、食事、洗濯についてのルールを決めたり、週2回のミーティングを行うことにしています。

宿泊施設の中を紹介しても
らえませんか？

1階は、玄関・受付とトイレがあります。階段を上って2階には、1人6畳ほどの居室10室と休憩室兼食堂などがあります。また、非常出口も作ってあります。ご覧のとおり質素なつくりになっていますが、財源が厳しいなかでも、せめてお風呂に入る時だけでもゆっくりとくつろいでもらいたいという思いで、一度に5〜6人が入れる大きな浴場を設置しました。このお風呂だけは自慢できます。1階の玄関口のあたりも改装して、さらに居室を作りたいと考えています。

運営にはどんな人たちが
かかわってるんですか？

ワークセンターの理事会が中心になって、日常の運営をしています。毎日、宿直をしますが、これも理事会のメン

バーだけでなく、ボランティアとして参加をしてくださる方がいて、助かっています。

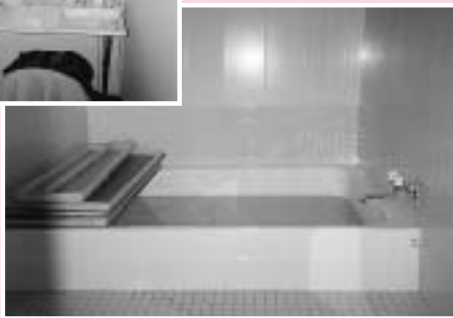
路上生活者の支援・救済運動で望んでおられることがあれば、お願いします。

行政の対応が十分とはいえないなか、支援・救済活動を開始しました。多くの団体や志があるボランティアの方々の協力をいただいています。さらに様々な取り組みを進めたいと思っています。様々な団体・個人にかかわらず、趣旨をご理解いただいた皆さんおひとりおひとりの、何かできることはないかという思いでの参加をお待ちしています。

こじんまりした部屋



自慢のお風呂



時には音楽

No.5



ベートーヴェン作曲
トリプルコンチェルト

ん。しかし、買って来たレコードは、ドボルザークの「新世界」ではなく、「新世界レコード」というレーベルから出ている、ベートーヴェン作曲「トリプルコンチェルト」だったのです。この間違いというが、偶然というが、そうだったことがなかったら、恐らくこの曲を知ることにはなかつたのではないかと思います。

今回とりあげるのは、またまたベートーヴェンです。ピアノ・バイオリン・チェロの奏者が、同じ曲の中で同時にソリストを務めるといって、大変変わった様式で、その名もずばり「トリプルコンチェルト」と言います。このような様式の曲は、ベートーヴェンが作った多くの曲の中でもこれだけと言ってよいものです。

この曲には、忘れ得ぬ記憶があります。時代は、60年代末から70年代初頭。日本列島は、高度経済成長で湧き上がり、70年万博で三波春夫が唄うは、「こんにちば世界の国から」。そして、テレビのチャンネルをひねると、アポロ11号の月面着陸が報じられ、熱血スボ根アニメ「巨人の星」の前に皆釘づけ。しかし、その一方で国中公害ばらまき列島と化し、光化学スモッグ注意報で大騒ぎという、そんな時代でした。

その頃の私は、九州博多の片隅で暮らしていました。貧乏たれの我が家でしたが、ある日なぜかステレオを買ったことになり、家に運ばれてきました。高い金を出して買ったからには良い音楽を聴かなくちゃなりません。良い音楽と言えはクラシックということですが、このことが私の音楽趣味の始まりとなったと言えます。そんなある日、ドボルザークの「新世界」を買って来てくれということになり、親父が買いに行くことになりました。行った先は、我が故郷九州博多が、その名をとどろかす西日本一の歓楽街「中州」のほど近く、川端商店街にあった土屋レコードです。この店で親父と店員との間でどんなやりとりがあったかはわかりませ

さて本題には入りませんが、この曲は指揮・カラヤン、ピアノ・リヒテル、バイオリン・オイストラッフ、チェロ・ロストロポービッチ、そしてオーケストラは、ベルリンフィルというその当時としては、これ以上の組み合わせはないとも言える、まさに国籍や政治体制を越えて、トリプルコンチェルトの演奏という、この一点に力を注いで作り上げられたものです。まさに、東西オールスター夢の競演と言えます。

協奏曲の魅力は、ソリストとオーケストラとの間で突っ込みすぎることなく、引きすぎることもなく、微妙な緊張関係の中で、お互いの技量を十二分に発揮することだと言えます。それで言えばこの曲は、ピアノ・バイオリン・チェロのソリストが、一堂に会するというたぐい希とも言える曲で、ある時はピアノ、またある時はバイオリンにチェロ、そして三者いり乱れての競い合いという緊張感に満ちています。しかしながら、気になることが二つほどあります。CDのライナーノートには、ベートーヴェンの曲全体から見た、凡作という趣旨のことが書いてあります。そして、カラヤンの指揮ということなのかもしれませんが、曲全体がそつなくまとまっていて、きれいに作られすぎではないかという感があります。それらのことは、この場ではよいこととしておきましょう。

この曲を収めたCDは、15年程前に発表されましたが、恐らく今では廃盤になっていると思います。入手は難しいかもしれませんが、機会があれば是非聴いてください。

川上 裕光 京都市民医労

トークプラザ

いよ、03秋闘ですね！

前野 弘 (民医労西支部)



もうすっかり涼しくなりましたね。皆様、風邪などひかれないうように、お仕事頑張ってください。

山口恵美 (民医労東支部)



最近仕事が広報誌の発行にかかわることになりました。大変参考に

なりました。最近つくづく感じます。あと何年元気に働けるかな～。

西本辰廣 (民医労西支部)



京都市民病院でも委託業者らしい方がいろいろな職場で増え、正規職員が減ってきています。責任問題など心配するのは、私だけでしょうか？

匿名希望 (市職労病院支部)



50周年レセプション81回大会も無事終わり、(お疲れ様でした)いよ

数珠つなぎネツ友

能登大二郎で～す。

この人、誰？まあそういわずに読んでちょうよ。

大ちゃん(みんなでそう呼んでるんや)は、今期より京都市民医労連の執行委員になりました。単組は民医労(副委員長)で支部は北支部(支部長)で、今注目の若手 1であります。仕事場は、待鳳診療所歯科で私たちの歯を作る技工師をしています。

青年部等では、結構目立ちたがり屋で支部、単組の青年を引っ張ってくれています。

お酒と交流は大好き(でも、お酒には弱いかも)で、趣味はバイク(冬はスキー)で(大型よ)遠乗りすることかな。たま～に田舎まで(福井の海沿いだそうです)走っていくこともあり。

みなさ～ん、この青年(大二郎)を一生よろしく。

紹介者は、青森県出身
民医労北支部 葛西 繁



*MESOに掲載して欲しい人(自慢、面白、ちょっと変わった人など)があれば紹介文と写真を載せて編集部まで送って下さい。次回はどのページに載るかお楽しみ。

irouren@labor.or.jp

<http://www.labor.or.jp/irouren/>

フオト通信

もくもくファームへ行きました



秋晴れの10月26日、京都医労連50周年企画のひとつとして、三重県の伊賀の里へもくもくファーム体験バスツアーを行いました。8単組90名の参加で、ウインナーを作ったり、パンを作ったり、地ビールを飲んでゆっくり温泉につかったり、家族で又は、仲間同士で、多忙な仕事を忘れて、のんびり楽しいひとときを過ごしました。



病院当局に申し入れる賃金職員の代表



10月1日厚労省が打ち出した賃金職員の雇い止め(首切り)方針に抗議し、NTT・国労などの仲間とともに、府内全域で、抗議宣伝行動を展開、4つの国立病院に申し入れを行いました。



厚労省前で訴える京都の仲間

11月18日～20日まで、厚労省前で抗議の座り込み行動を実施、19日の中央集会には、5000人の仲間が集まりました。

ホームレスの人が医療機関を受診した場合の医療費は、救急車による搬送での外来受診については、保護された地点の管轄区役所の総務課が対応します。また救急搬送での入院治療は、区役所の総務課を通して福祉事務所から入院医療券が発券されます。

待合室

これは居住地が定まらなければ生活保護を適用しないという生活保護行政の慣行があったためですが、最近では少しは変化してきて居住地が定まっていなくても受診日のみ指定の医療券を発行したり、福祉事務所を住所地として生活保護適用の行政対応をしようとしている面もあります。しかし、いずれにしてもホーム

10月26日の日曜日晴れわたる日に京都の青年が声を挙げました。ヽ(´▽`)ノ『青年に仕事を 働くルールを』今、若者の10人に1人が仕事に就くことができず、フリーターが417万人にものぼっています。とこんなアピールを掲げて、河原町をパレードしました。またそれぞれの思いを一言メッセージとして紙に書いて布にはり、それを持ってパレードしました。京都医労連からは約10人が参加し、今の医療の現状を訴えました。



2003くいまあはーてー

とき 2003年12月12日(金)
19:00 OPEN
ばしょ 伊太利亜居酒屋『マヌ』
(寺町通り四条上ル WITH YOU2階)
おかね 4,000YEN

お申込は12月6日(土)までに京都医労連書記局(TEL.801-8002)までお願いします。



レスの人が行政の窓口をくぐらなければ、何事も始まりません。ホームレスの人の中には行政対応に精通していて、上手に救急を使つて医療機関を受診する人もいます。医療機関にとつては、医療費の回収という面からも困りものという側面が強いと思いますが、あなただけではどうでしょうか。

(恋)